

〈口腔の役割〉

レッサーパンダがやってきた

桐生が岡動物園では市制施行 100 周年事業で今年 3 月 25 日にレッサーパンダ舎が完成し、現在 3 頭のレッサーパンダが公開されています。レッサーパンダといえば今からおよそ 17 年前、かわいらしい立ち姿で一躍時の人?となった千葉市動物公園の「風太くん」を思い出す人も多いのではないのでしょうか。実は「風太くん」に限らず、レッサーパンダは普段は 4 本足で生活していてもみんな 2 本足で立つことができます。竹を食べる時に先の柔らかい葉を食べるために立ち上がり、また周囲を警戒するときに立ち上がります。なぜこんなに上手に立てるのかというと、足の着き方が人と同じように、直立の時はかかとまで着けるからといわれています。また長い尻尾（しっぽ）を使って微妙なバランスを取ることができます。さらに膝（ひざ）の関節が前後左右に人と同じように動かしてバランスがとりやすくなっています。

二足歩行を行うヒトには尻尾がありません。その理由は、もともと安全な木の上で生活していたサルが地上に降り、2 本足で草原を走り回る生活を始めたことから、尻尾の利用価値がなくなり、次第に退化したという説が一般的です。

ヒトの場合は直立し、2 本足で生活をしていますが、ただじっとその場に立っているだけの静的な身体のバランスの保持や、歩行や運動などの動的な身体のバランスを取るにはふくらはぎの筋肉がとても重要になります。実はこのふくらはぎの筋肉の一つ、ヒラメ筋と顎の筋肉（咬筋）は連動し、噛み合わせることや顎の筋肉を緊張させるにより、ヒラメ筋の力配分を微調整しているのです。

高齢により歯を失い、義歯を入れずにいると食事が食べにくくなるだけでなく、顎の筋肉が衰えるため、平衡感覚や身体機能が低下することはよく知られています。

「風太くん」は現在 18 歳、人間でいうと 80 歳の高齢であり、数年前に歯周病で歯を悪くしたと報じられた時期と、次第に立ち姿が見られなくなったとニュースが報じられた時期はちょうど同じ頃です。ヒトもレッサーパンダも雑食性ですから歯の種類や顎の骨格など、共通点がいくつかあります。レッサーパンダのバランス感覚も尻尾だけでなく、人間のように顎の筋肉が影響しているのかも知れません。



桐生が岡動物園のレッサーパンダ舎

休日は親子連れでにぎわいます。現在コロナ禍のため、入口での手指消毒、検温やソーシャルディスタンスも徹底しています。



吊り橋を渡るレッサーパンダ

尻尾で上手にバランスを取り、軽快に渡ります。運が良ければ立ち姿を目撃できるかもしれません。

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

